

『先生 CM をプロデュースしよう！』

東京大学大学院学際情報学府

修士 1 年 門脇 渉

修士 2 年 河島茂生

修士 2 年 金 映蘭

修士 1 年 寿楽浩太

修士 1 年 佐々木聖

■一連の流れ

▽9/12(金)

企画の狙いを適切に伝えることを心がけ、ディスカッションを交えることで、次回以降へのモチベーションを高める。全体としては、制作段階にはあえて立ち入らず、前提としての CM を深く理解してもらうことが先決である。

①挨拶…院生の自己紹介

②グループ作り…4～5 人のグループを 6 つ作り、リーダーを決める。

リーダーは、発表の際に陣頭指揮をとる。

③企画説明

④実際の CM を題材にディスカッションする。

ここでは、CM を 4～5 本見ることによって技法を学ぶ。ポイントはカット割り。特に参考にするのは、

i) (小学生向けのもの) …どこがどのように面白いのかを検討する。

ii) 洗剤…黒、ばい菌から白さへの強調。清潔さの表現の特徴。

iii) ポリンキー…ワンカットで連呼するだけの分かりやすさとインパクト。

iv) ゼブラのボールペン…まったく関係ないようで、最後のカットでプロット全体を納得させる。

v) (人物 CM) …今回のモチーフに最も近く、参考になりやすいかも。

⑤院生のデモと絵コンテの紹介

院生のデモとその作成法や絵コンテを紹介し、お手本を見せる。ここでも質問等を交えることで、積極的な参加を促す。

⑥手順説明

生徒たちに動いてもらう手順を説明する。ここは、レクチャー中心。大事なものは、予め決められたいくつかのパターンの CM の「最終カット」を放映する作業である。どのシーンをピリオッドとすることで面白い CM が作れそうか考えてもらう。

⑦課題提出

次回までに CM を深く考えながら見てもらうことを宿題とする。メディアへの批判的な見方を養い習慣化するとともに、CM 作成の新たなヒントを得ることが目的。

▽9/16(火)

CM への考え方を振り返り学習しながら、独自の企画立案に臨む。企画案をクラスで発表することで、面白さや難しさを反省し、絵コンテやカット割り作成の作業に生かす流れを導入する。

①説明…前回のおさらい

②企画検討

簡易な企画書のシートに書き込みをし、撮影へのイメージを蓄えていく。グループの独創性と基本的な方針を確認していく段階である。大事なのは、先生のどこをどのように引き立てるか。そのためには、生徒たちが先生に抱いているイメージを整理する作業が必要となる。その作業の上で、それを誇張したり、面白く見せる技法が決定することとなる。

③企画案発表

発表持ち時間 2 分程度で、OHP を用いて簡単な方針を発表する。他のグループの方針を参考にしながら、よりオリジナルなものを検討する段階である。それぞれのグループの企画の総括を院生が板書し、相互比較が行えるとディスカッションもスムーズになるだろう。

④カット割り、絵コンテ作成

カット割りシートにストーリーの大まかな流れを記載する。その上で、実際に絵コンテ作成を行う。絵コンテシートには、場所や登場人物といった場面設定から、台詞を書き入れる欄までが用意されており、そこに必要事項を埋めていくことで、大まかなプロットが作成できる作りになっている。

▽9/24(水)

1 週間日程が空いてしまうため、前回の絵コンテ作成までの流れを振り返るためにも、絵コンテ中間発表を行う。それをふまえた上で、実際の撮影に入る。

①説明…前回のおさらい

②絵コンテ中間発表

紙芝居風に OHP を用いて中間発表を行う。きれいな絵は期待できないため、汚いながら絵でありながらも 30 秒のストーリーがわかるように説明してもらう工夫を、院生サイドで用意しておきたい。また、生徒たちは他のグループの絵コンテの発表を聞いて、その CM がどのようなものになるか、想像をたくましくしてもらいたい。なぜなら、期待していたカット割りと実際に出来上がった CM の間にどのようなズレが生じてしまったかを自覚することが最終的に必要となるからだ。それぞれのカットの効果を改めて認識し、その場で撮影のアドバイスを与えることになるであろう。

③修正…院生のチェックを入れる段階

④撮影

院生が撮影を行う前提で、それぞれのカットをそれぞれの場面で撮影していき、それをつなぎ合わせていく。ビデオカメラは多くて 3 台くらいしか用意できそうにないため、15 分×4 回のタームで行う。

第1ターム：A・B・C グループ 1 回目の撮影

第2ターム：D・E・F グループ 1 回目の撮影

第3ターム：A・B・C グループ 2 回目の撮影

第4ターム：D・E・F グループ 2 回目の撮影

という要領で、1 回目の撮影を振り返り、修正できる点を改善する作業に空き時間をあてるよう指導する。その割り当ては、適宜院生が判断する。

最終的には、院生サイドで次の日までにある程度まで編集を施しておく予定でいる。

▽9/25(木)

前日撮影した CM を放映し、みんなで評価をしあう。面白かった点や事前の企画と食い違った点などを出し合い、ディスカッションを深めることで、CM の表現技法や効果のクラスなりの総括を行いたい。

①発表

30 秒 CM を放映するが、その前に各グループで苦勞した部分や工夫した箇所、見所などをインタビュー形式で聞き出していきたい。これは、オーディエンスにあたる他のグループの期待感を高めるとともに、作り手が期待していた効果が十分に発揮できるか検討するためである。

②評価

投票形式を採用する。院生サイドで評価シートを用意する。そこには基準軸が設けてありポイント化できるようになっており、また意見等を書き込む欄も設ける予定でいる。これを材料にディスカッションを行っていききたい。（「恋の空騒ぎ」方式を採用するかも？）

③総括

再度、実際の CM と引き合わせて、今回の CM 作成が何だったか振り返る時間を設ける。きれいなフィナーレを心がけるためにも、何か模範的な（もしくは大失敗的な）CM を用意することで、小学生の完成度を絶賛するか、もしくは苦勞を評価するだけの劇的な仕掛けがあったらいいと思っている。まだ、どのようなフィナーレになるかは未定。